

1 総括についての評価

前後期の学校生活アンケートをはじめ、中学生チャレンジテスト等の客観的な数値データを基に検証・総括がなされており、評価としての信頼性が担保されている。また、アンケート結果について、「最もあてはまる」だけでなく「あてはまる」も含めて肯定的な回答全体も比較できるデータを作成したことで、結果の経年変化をたどることができる。

今年度の教育活動について、教職員による教育活動のみにとどまらず、区役所施策のサポーターやこども相談センター、区役所子育て支援室、サポートセンター等、校外の教育資源を活用し、「チーム学校」として子どもたちに向き合っていることが感じられる。

一方、生徒の様子を見ると、不登校生徒と、外国籍生徒の増加への対応が喫緊の課題と考えられる。不登校生徒については、サポーターや登校支援のためのHERが整備され、運用による状況の改善を期待したい。また、外国籍生徒の増加に対しては、他の機関での教育活動を期待することもできるが、現在東中内に国際クラブの設置を検討していると聞いており、こちらにも期待したいところである。

このように、多様化する子どもたちの現状に合わせて東中は教育活動を多様化させていることがわかる。またそれを支えるために教職員が一丸となって、日々研修を積み重ね、向上心を持って勤務されていることも感じられた。働き方改革との両立が困難であることも十分承知しているところであり、教職員が健康に留意され、子どもたちのために質の高い東中教育を維持してくださっていることに感謝する。

今後も学校が抱える新たな教育課題の解決のため、生徒による主体的活動を推進し、子どもファーストの考えのもと、熱意あふれる「東中」の特色ある教育実践を引き続き展開していただきたい。

2 年度目標ごとの評価

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

1. 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度 8,53%より減少させることをめざし、8,41%という結果になった。

（安全・安心な教育環境の充実）

2. 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と答える生徒の割合を 86%以上にすることをめざし、結果は 85 パーセントとなった。

3. 今年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させることをめざし、昨年度 51.7%だったのに対し、28.2%にとどまった。

※ 前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握

※ 改善とは、次の状態の場合をいう。（複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。）

1 出席日数の増（学校内外でICT等を活用した学習活動をするによる出席認定含む）

2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。

3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるよ

- うになった。または、継続してつながるようになった。
4. 今年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 66%以上にするをめざし、結果は 64%となった。
 5. 今年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 65%以上にするをめざし、結果は 72%と大きく上回った。
 6. 今年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 41%以上にするをめざし、結果は 43%と上回った。
 7. 今年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 49%以上にするをめざし、結果は 47%となった。
 8. 今年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 64%以上にするをめざし、結果は 70%と上回った。
 9. **「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童生徒の割合(%)を 72%以上にするをめざし、結果は 67.2%となった。【全国学力・学習状況調査】(豊かな心の育成)**
 10. 今年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 59%以上にするをめざし、結果は 60%と上回った。
 11. 今年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につく、本を読むことが好きになった」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 40%以上にするをめざし、結果は 35%となった。
 12. 今年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事や PTA 活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 31%以上にするをめざし、結果は 26%となった。また、今年度の学校生活アンケートにおける「学校行事や PTA 活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 57%以上にするをめざし、結果は 70%となることをめざし、結果は 70%となった。
 13. 今年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 66%以上にするをめざし、結果は 58%となった。
 14. 今年度の学校生活アンケートにおける「学校元気アップによるお昼や放課後の図書館開館や学習会など学校元気アップの取組に参加している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 20%以上にするをめざし、結果は 21%と上回った。
 15. 今年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一人として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 77%にするをめざし、結果は 91%と大きく上回った。
 16. 今年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じる事ができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 52%以上にするをめざし、結果は 58%と上回った。
 17. 今年度の学校生活アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 61%以上にするをめざし、結果は 59%となった。
 18. 今年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯

罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 62%以上にすることをめざし、結果は 68%と上回った。

【評価】

学校生活アンケートの数値データに加え、経年変化が捉えられるよう、情報が用意されており、「最も当てはまる」の項目だけでは見えてこない、学校がこれまで通り行っている遜色ない努力が、大きな変化なく高水準で保たれていることが分かる。

アンケート結果にあるように、今年度も教科学習以外にも様々な学習活動が行われている。そこでは子どもたちが学びの中で様々な問題に直面し、判断して克服していく過程で、社会で生き抜くための重要なコンピテンシーを養う機会となっていることがうかがえる。今後も、子どもたちにどのように生きていってほしいのか、その願いをもって学校運営をしていっていただきたい。

アンケート結果が充実しているものの、こうした状況が校区の小学校になかなか伝わっていないようである。中 1 ギャップを防いでいくためにも、PTA 同士の交流などを活用して広く喧伝していただき、東中の様々な活動の中で子どもたちの生き生きとした姿を伝えていただきたい。教職員の皆さんの活動が外部からの高い評価となっていることをうれしく思いながら、今後も応援をしていきたい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

1. 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル（英検 3 級）相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 77%以上にすることをめざし、結果は 82.9%と上回った。【本市調査（大阪市英語力調査）】（誰一人取り残さない学力の向上）
2. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女とも前年度より 0.01 ポイント向上させることをめざし、結果は男女とも前年度より 0.01 ポイントの低下であった。【全国体力運動能力、運動習慣等調査】（健やかな体の育成）
3. 今年度の学校生活アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と答える生徒の割合を 51%以上にすることをめざし、結果は 53%と上回った。
4. 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させることをめざし、2 年の数学が前年度と同様の結果となったが、それ以外は 0.01~0.03 ポイントの向上となった。
5. 今年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える生徒の割合を 55%以上にすることをめざし、結果は 50.5%となった。
6. 今年度学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 48%以上にすることをめざし、結果は英数国平均で 55.3%と上回った。
7. 今年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力・読解力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 71%以上にすることをめざし、結果は 70%となった。
8. 今年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 27%以上にすることをめざし、結果は 42%と大きく上回った。
9. 今年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 52%以上にすることをめ

ざし、結果は 57%と上回った。

10. 今年度の学校生活アンケートにおける「学校は 1 人 1 台端末などの ICT 機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 71%以上にするをめざし、結果は 65%となった。
11. 今年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 57%以上にするをめざし、結果は 62%と上回った。
12. 今年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 67%以上にするをめざし、結果は 77%と大きく上回った。
13. 今年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業に積極的取り組んでいる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 66%以上にするをめざし、結果は 71%と上回った。
14. 今年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 71%以上にするをめざし、結果は 71%となった。
15. 今年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 41%以上にするをめざし、結果は 49%と上回った。

【評価】

生徒たちの学力についての結果から、生徒たちも学校も大変努力していることがわかる。その評価についても根拠が示されているとわかる。

一方で、アンケートの結果をみると、学校が中央区内で急増する外国籍生徒への対応について、意欲的に対応していることがよくわかる。しかしながら、こうした外国籍生徒に対応するための加配教員の配置が十分に行えているかが心配になる。マンパワーは有限であり、多くの対応が必要となる外国籍生徒の増加に対して、十分な教育資源を市や区から引き出してほしい。

体力や運動習慣の調査結果と生徒数の急激な増加との間に、相関があるのではないかと。今年度も外壁工事等でもともと狭いグラウンドの使用可能域が狭まるのに加え、生徒数が急増していることで、グラウンドを利用する生徒間の距離は狭まり、運動能力や運動への関心を高められる活動が十分に行えないのではないかと。こうした問題を、市や区に働きかけ、解決策を引き出してほしい。

【学びを支える教育環境の充実】

1. 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の半数を超えることを目指したが、12 月末時点で 28%であった。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕（教育 DX の推進）
2. 教員の勤務時間の上限に関する基準（基準 2）を満たす教職員の割合（%）を 47%以上にするをめざし、2 月末で 53.06%と上回った。【本市独自調査】（人材の確保・育成としなやかな組織づくり）
3. ICT の活用に関する目標を設定する。
 - ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校は 1 人 1 台端末などの ICT 機器を活用した学習活動の実践に努めている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を

71%以上にすることをめざし、結果が 65%となった。

- ・今年度の学校生活アンケートにおける「インターネットや SNS を正しく安全に利用することができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える生徒の割合を 71%以上にすることをめざし、結果は 71%となった。
 - ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校はいじめ・不登校などの防止対策として ICT を活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 70%以上にすることをめざし、結果は 65%となった。
 - ・今年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える保護者の割合を 57%以上にすることをめざし、結果が 58%と上回った。
4. 教職員の働き方改革に関する目標を設定する。
- ・ゆとりの日を月 1 回程度設定し、この日の時間外勤務時間を可能な限り減らす。
 - ・4～11 月の 8 か月間において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の時間外勤務時間に関して（基準 2）を満たす教員の割合を 30%以上にすることをめざし、2 月現在で 53.06%の教員が達成できた。
 - ・令和 7 年度の 4 月～11 月までの 8 か月間の時間外勤務時間において、教員全体で Lv4（月 100 時間超）の割合を前年度より半減させることをめざし、昨年度ののべ 8 人から 3 人に達成することができた。また Lv3（月 80 時間超）以上の月のある教員一人一人が前年度の各月の時間外勤務時間のレベルを下げる月の回数を増やすことをめざし、Lv4 が半減しただけでなく、Lv3 の教職員も昨年度の 49 人から 44 人へと減少させることができた。

【その他】

1. 今年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 52%以上にすることをめざし、結果は 63%となった。
2. 今年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と答える教職員の割合を 42%以上にすることをめざし、結果は 63%となった。

【評価】

学校の様子について、ホームページ等で発信されている更新数や情報量からは大変多くのことがわかる。中でも、生徒にとって有意義であると感じられる数多くの行事が元気アップなどとも協働しながら実施されていることがわかり、うれしく思う。

一方で、教育活動の ICT 化が今後どのようなようになっていくかを注視しておきたい。CBT 化される学力調査が子どもたちの力を正しく図れるものなのか、疑問も残る。生成 AI の活用なども不要な部分で子どもたちが利用するのではないかと心配な部分もある。

3 今後の学校園の運営についての意見

学校を取り巻く教育課題は複雑多様化しており、特に不登校生徒と外国籍生徒が増えつつあるという課題の解決に向けて組織的な対応が必要不可欠である。

ただ、原因が明確にわからず、子どもにとって社会が変容する速度についていけないために、不登校となっている生徒や、周囲からのストレスに対する耐性を保てずに不登校となっていく生徒がいることが、これまでと異なるところであるため、学校にとっても対応する困難さがあることを感じる。

また、外国籍生徒の急増化については、学校側の対応も大変であることが感じ取れた。特に、進路指導においては、教職員の苦労がよく伝わってくる。その一方で、日本語を習得しつつある生徒が、新たに転入してきた生徒の通訳をして「役に立てた」と喜んでいたり、子どもたちの中で笑いあっていたりした姿があったことの報告も印象的である。また、日常の学校生活の中で、外国籍生徒に対する差別事象やトラブルもほとんど聞かれないことにも安心している。教育活動の中で、こうした様子が垣間見られることは、教員の皆さんの素晴らしい仕事のおかげだとも改めて感じる。

確かに、時代の早い流れの中で、様々な価値観を持ち合わせた子どもや保護者が入学してこれられると思うので、そのような保護者の方々にも東中の教育方針に十分な理解を図るためにも、PTAなども活用しながら、校区小学校に中学校の様子が伝わっていくようになればよいと感じている。そのうえで、これまでの東中学校の伝統ある教育活動を安易に変容させていくのではなく、誰からもわかりやすい教育内容を全教職員で共有するなどしながら、生徒たちに「決まりを守ること」は、社会に出ても必要なことであり、それが自分たちの安全と命を守ることにつながっていくのだ」ということを教えていただき、社会に貢献できる人間を育成していただきたい。

東中の課題は他校にとっても課題であることがよくわかる。その課題を克服していくためにも、これまで同様、社会で生き抜くための「コンピテンシー」を養い、「ディグニティ（品格）」と「ホスピタリティ」に満ちた生徒を育てるビジョンのこもった学校づくりをお願いしたい。